

第2学年 国語科学習指導案

2 年

23名

指導者

坂 田 利 絵

宮 本 美由紀

1 単元名 作ろう 絵入りのせつ明書 ～たしかめながら読もう～

2 指導にあたって

(1) 単元設定の理由

本学年は、自分の好みの本を熱心に読み、読書を楽しんでいる学習者が多い。また、いろいろな音読の体験も重ねてきたため、ある程度まとまりのある文章もしだいに読めるようになってきている。

学習者はこれまでに、『たんぽぽのちえ』において、文章と挿し絵を対応させ、時間的な順序を中心に読み取る学習、事柄の様子とわけの関係をとらえる学習をしてきた。さらに、『サンゴの海の生きものたち』では、生き物どうしの共生の関係を読み取る学習をし、ここでも文章と写真を見比べながら学習した。単元のおわりに「クイズ大会」や「生きもの新聞作り」を設定することで読む意欲が高まり、それを作る過程では、表現の仕方をヒントにするため、教材文を何度も読み返して自分の表現を振り返る姿が見られるようになった。このように「読むこと」と「書くこと」をつなげてきたが、表現に即して正しく読み取る力や伝えたいことが分かるように書く力はまだ十分ではなく、支援が必要な場合もある。自信がもてない学習者には、ペア学習を取り入れたり手引きを用いたりして、自信をもてるようにしてきた。

本単元では、『一本の木』をモデル学習として、「読む」活動を通して説明書の書き方を学習し、自分の説明書作り（「書く」活動）に生かすことで、文章の順序性やまとまりを考えながら読んだり書いたりする力を伸ばすことをねらいとしている。そこで、教材文を表現に即して読み取り、順序よく書くことや文章と挿し絵を照合させることの大切さをとらえさせ、書く活動に生かしたい。学んだことを意欲的に生かす場、つまり、説明書を書く活動では、相手や目的を明確にすることで、楽しく書くことができ、書く力を伸ばすことになると考える。さらに、再び読みに返すことで、学んだことの有用性を確認し読みを深めることができると考え、本単元を設定した。また、本単元で培ったことばの力は、書かれている言語情報を読み取ったり、活用・発信したりする情報活用能力の基礎にもなると考える。

本時は、モデル学習で練習したことを生かし、自分の伝えたいものの説明書を書く。言葉辞典や手引き等を用意し、自分の力で書く環境を整えることにより、書くことを苦手と感じている学習者が、主体的に取り組むことができるように支援する。また、自覚的に取り組むことができるよう、同じ事柄ごとにグループを作って、文章の推敲や発表時にも学び合いの場がもてるようにすることで、自分の表現に自信をもったり、同じ題材にもかかわらず感じ方に違いがあることに気付いたりできるよう配慮し、確かな読み・書きにつなげていきたい。

(2) ことばを大切に、「読むこと」を通して、自分の考えを深め表現できる力を育てる手だて

- 文章を正確に読み取らせるために、いろいろな方法での音読、手引きやワークシートの活用、文章と絵を結び付ける活動などを効果的に取り入れる。
- 事柄の順序や文章全体の構成をつかませるために、「はじめ・中・おわり」の形式で読み取ったことを共通教材をもとにまとめさせ(モデル学習)、自分の説明書作りに生かせるようにする(発展学習)。
- 考えや感想を述べ合い、感じ方の違いに気付いたり考えを深めたりすることがより効果的になるように、意図的にグループ分けをしたり、適切に対話や会話の場を設けたりする。

3 単元の目標

(1) 学習者の活動目標

- 絵入りの説明書を作ろう。

(2) 指導目標

- 相手や目的を明確にして、表現物作成に楽しんで取り組めるようにする。
- 説明されている事柄の順序や文章と挿絵とのつながりなどを確かめながら読むことができるようにする。
- 伝えたいことが分かるように、順序や文章のまとまりに気を付けて書くことができるようにする。

4 評価について

	評価規準	「十分満足できる」状況 「おおむね満足できる」状況にするための手だて	評価の資料
関心 ・ 意欲 ・ 態度	相手や目的を明確にして、 表現物作成に楽しんで取り組もうとしている。	・「十分満足できる」状況 相手や目的を明確にして、表現物作成に進んで取り組もうとしている。 ・「おおむね満足できる」状況にするための手だて 絵入りで作り方や遊び方を説明している本のコーナーを設置して関心をもたせる。 絵入りの説明書の見本を見せることで、見通しをもち楽しんで取り組めるように励ます。	発言 学習者の様子 評価カード
読むこと	説明されている事柄の順序や文章と挿し絵とのつながりなどを確かめながら読んでいる。 (読むことイ)	・「十分満足できる」状況 説明されている事柄の順序や文章と挿し絵とのつながりなどを理解して読んでいる。 ・「おおむね満足できる」状況にするための手だて 順序を表す言葉（まず・つぎに・そのつぎに・同じようにして）を□で囲んで視覚的に分かりやすくし、文章と絵とのつながりをとらえさせる。	学習の記録 発言 学習者の様子
書くこと	伝えたいことが分かるように、順序やまとまりに気を付けて書いている。 (書くことア・エ)	・「十分満足できる」状況 伝えたいことがよく分かるように、絵に照応する文章を、順序やまとまりに気を付けて<u>書いている。</u> ・「おおむね満足できる」状況にするための手だて 「はじめ」と「おわり」の書き方を提示したり、「中」の部分、順序を表す言葉を使って書いたりできるように手引きする。	学習の記録 説明書 学習者の様子

5 学習計画 (全12時間)

身に付けさせたい力	学習活動と指導 (★)	学習者の意識の流れ
[関心] 相手や目的をはっきりさせて、楽しんで取り組もうとする。 [読む] 説明されている事柄の順序をとらえながら読む。 [読む] 文章と挿し絵とのつながりなどを確かめながら読む。 [書く] 伝えたいことが分かるように、語と語や、文と文との続き方に注意して書く。 [読む] 文章の順序性やまとまりを確かめる。	(事前) 絵入りで作り方や遊び方を説明している本を学級文庫に置いておく。 1 『一本の木』を読んで、学習の見通しをもち、計画を立てる。(2時間) ★絵入りの説明書の見本を見せ、自分たちも1年生に伝えるための見通しをもたせる。 2 文章と挿し絵のつながりを確かめながら、『一本の木』を読む。(6時間) ★順序を表す言葉に着目させ、ムナリーさんの木の描き方をまとめさせる。 ★文章と挿絵を照合させ、「さまざまな形の木」の違いを読み取らせる。 3 自分が伝えたい物を選び、絵入りの説明書を書く。(4時間 本時2/4) ★順序を表す言葉を使い、絵に照応する文章を書かせる。 ★手引きなどを活用させる ★1年生に見せる前に、友達と交換して読み合い、感想を述べ合うことで自信をもたせる。	おもちゃを作りたいな。これなら作れそうだ。〇〇の作り方を知っているよ。 1年生に伝えたいな。 どうしたらいいかな。 こんな書き方があるんだ。でも、書けるかな。 教科書にも、絵入りの説明書があるよ。 ムナリーさん、この描き方で、本当か？ おもしろそう。 ムナリーさんの描き方で、木の絵を描きたいな。 うまく描けないよ。本の絵とどこか違うな。初めてこんな木が描けたよ。 どうしたらうまく描けるかな。詳しく読んでみよう。 太さが半分になってなかったからかな。前の枝より少し短くできていなかったよ。順序よく描かれていて、分かりやすいな。 でも、本物の木はこんな木ばかりじゃないよ。 いろいろな木の形があるな。枝の分かれ方は二本だけではないなあ。近くに、4番目の木があったよ。 木の描き方や形のことがよく分かった。分かったことを誰かに教えたいな。 どうして、ムナリーさんの書き方は分かりやすいのかな。 「はじめ」に、呼びかけるように書くんだな。「中」に、順序を表す言葉を使って書くんだな。「おわり」に、まとめを書くんだな。 順序を表す言葉を使って、文章と絵を合わせて書くと分かりやすいよ。 絵入りの説明書を1年生に書こう。 「はじめ」「中」「おわり」に分けて書いてみよう。 手引きを使おう。順序よく書けているかな。絵がぴったり合っているかな。 画用紙にかいてみよう。 どんな工夫をしているかな。カッコいい題を付けたいな。友達がほめてくれてうれしいな。 早く1年生に伝えたいな。

6 本時の学習

(1) 目標

① 学習者の活動目標

絵入りの説明書の下書きを書こう。

② 指導目標

書く事柄の順序を考えながら、語と語や文と文との続き方に注意して書くことができるようにする。

(2) 展開

学習活動	指導上の留意点	具体的評価規準
1 前時の学習を振り返り、分かりやすい説明文について確かめる。	・順序を表す言葉や文章と絵とのつながりを確かめながら音読させる。 ・分かりやすい説明文にするための約束事をみんなで確認する。	
絵入りの説明書の下書きを書こう。		
2 説明書の下書きをする。 <書き終えた後の活動> ○ グループの中で、書き終えた学習者がいない場合は、指導者に手紙（自己評価）を書く。 ○ グループの中で、書き終えた学習者がいる場合は、交換して読み合う。 ・読んだ感想を伝え合う。 ・絵に合う文章を書くことができているか確かめ合う。 ・自分の説明書と比べて、似ている点、似ていない点を伝え合う。 ○ 交流よりも、自己評価に関心がある学習者は、手紙（自己評価）を書く。	・同じ題材を選んだ学習者を同グループに編成することで、他者から学んだことが自己の取り組みに生かせるようにする。 ・分かりやすい説明書が書けるように、「書くポイント」を提示する。 ・書き進められない学習者のために、手引きや言葉事典の活用を助言する。 ・早く書き終わった学習者には、自分の書いた説明書について、指導者に手紙（自己評価）を書くよう促す。 ・書いた文章を読み返し、「書くポイント」に照らし合わせて直せるよう促す。	書く事柄の順序を考えながら、語と語や文と文との続き方に注意して書いている。
3 学級全体で、説明書の下書きを確認する。	・本時のねらいがよく表れている作品をモデルとして、実物投影機で提示し、よいところを伝え合わせる。	
4 学習のまとめをする。	・次時の学習への意欲をもたせる。	

(3) 評価

評価規準 「十分満足できる」状況	「おおむね満足できる」状況にするための手だて	評価の資料
書く事柄の順序を考えながら、語と語や文と文との続き方などを工夫して書いている。	・「中」の部分を、順序を表す言葉を使って書くことができるように手引きを活用させる。	・ワークシート ・学習者の様子